

## 論文内容要旨

報告番号	甲 先 第 <b>213</b> 号	氏 名	大西 舞
学位論文題目	空間の履歴を活かした協働プロセスのデザインとマネジメント ー広島県北広島町の生態系保全活動を事例としてー		
<p>内容要旨</p> <p>わが国では、かつてより、生態系に対して何らかの負荷を与えることで、その生態系を維持してきた。草原は共有地として、里山は共有地や私有地で管理されることが多かった。草原や里山を管理し続けることで、その生態系からさまざまな生態系サービスを得ていた。</p> <p>一方で、極相状態の森林は、人里から離れているなど、アクセスしにくい場所で見ることができる。湿原においては、利用しにくい土地として手をつけられずにいた生態系である。こうした生態系に価値がないのかというと、決してそうではない。草原や二次林のように、目に見える形でのサービスとちがひ、洪水防止や気候調節などの調整サービスといった目には見えない、しかし私たちの生活を支えるのに重要なサービスを提供している。</p> <p>近年では、その多様性は失われつつある。人が維持・管理してきた草原や里山に関しては、1960年代からのエネルギー革命や農業機械の普及といった社会構造の変化によってその姿を消しつつある。相状態の生態系も、土地改変などの影響から減少しつつある。</p> <p>そうした状況の中、近年では多様な主体による協働での生態系保全活動が各地で行われている。しかし、こうした活動において、地域住民と生態系のかかわりを考慮せずに活動を進める事例が見られる。地域住民の想いは、地域がかかわりを持ち続けた空間に潜んでいる。地域住民と空間とのむすびつきの歴史を把握せず、ただその地域の表面だけを見るのみでは、その地域らしさのない、どこにでもある活動に陥る危険性がある。</p> <p>本研究では、桑子敏雄が提唱する「空間の履歴」という概念を用いて、人と生態系との関わりのあり方の履歴を探り、継続的な活動に活かすためのしくみを明らかにすることを目的とする。</p> <p>本研究では、広島県北広島町を対象とした。ここでは、多様な主体による生態系や生物の保全・再生のためのさまざまな活動が行なわれている。それらはすべて、1人のコーディネーターによって仕掛けられている。まず空間の履歴を活かした活動とはどのようなものなのか、その活動を継続して行うためにどのようなしくみが施されているのかを明らかにする。これらは、遷移系列に沿った各生態系における取り組みに着目することで明らかにする。そして、それらの活動をしかける際には、だれに働きかけ、人材をどのように配置しているのか、それぞれがどのような役割を担い活動を行なっているのか、活動プロセスのデザインとマネジメントに着目し、明らかとする。</p>			

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">甲先</div> 乙先 第 <b>213</b> 号 工修	氏 名	大西 舞
審査委員	主査 山中 英生 副査 近藤 光男 副査 鎌田 磨人		
学位論文題目 空間の履歴を活かした協働プロセスのデザインとマネジメント —広島県北広島町の生態系保全活動を事例として—			
<p>審査結果の要旨</p> <p>本研究は、生態系保全に係る協働を継続させていくための仕組みを、「空間の履歴」という概念枠を用いながら検討し、協働の仕組みづくりに活かすことの必要性を提示しようとするものである。「空間の履歴」とは、地域に住む個々の人が周辺の空間（生態系）といかに関わってきたのか、また、そこで他者とどのように関わり、どのように意思決定してきたのかを含む概念である。</p> <p>大西は、北広島町で自然再生が図られつつある3つの生態系（共有地としての草原、私有地としての里山、公有地としての湿地）を対象とし、過去の土地利用と利活用に係る意思決定のあり方の違いを浮き彫りにし、そして、その違いが現在の協働活動の意思決定過程にどのように反映されているかを明らかにした。</p> <p>さらに、これら協働による自然再生活動を展開していくにあたって、ステークホルダーをつなぎ、そして、「空間の履歴」を共有する地域の人々によって保持されてきた価値と、活動を支援しようとする地域外の人々が持つ価値をつないでゆく役割を果たしている「協働コーディネータ」の振る舞いを分析することで、協働活動のプロセスをデザインし、マネジメントしていくための論理を明らかにした。そして、協働コーディネータの働きかけにより、ステークホルダーを取り込む形で創出されたNPOは、内と外の価値をつないでいくためのマネジメントと、協働活動の方針づくりに係る意思決定を行う役割を担っていることを示した。それは、新しいガバナンスの仕組みを示唆するものである。</p> <p>本研究で提示された、協働プロセスのデザインとマネジメントのあり方、ガバナンスの仕組みは、他の様々な地域での協働活動を促進していく上で非常に有効なものであり、博士（工学）の学位授与に値するものと判定する。</p>			